



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

contents

活動報告	—合同宿泊研修会—	・・・・・・	1・2面
	—保育研究委員会研修会—	・・・・・・	2面
	—障害研究委員会研修会—	・・・・・・	3面
	—第22回社会福祉法人経営青年会全国大会—	・・・・・・	3・4面
	—関東甲信越静岡ブロック経営青年会 総会・研修会—	・・・・・・	4面
	—会員交流会—	・・・・・・	5面
	—平成30年度第2回総会、研修会—	・・・・・・	5・6面
お知らせ	—今後の予定・新入会員紹介・会員数—	・・・・・・	6面

活 動 報 告

合同宿泊研修会

会員の資質向上と情報交換を図る秋の恒例「宿泊研修」を、去る平成30年10月25日（木）・26日（金）、箱根湯本「箱根水明荘」で行いました。

今年度は、東京都、山梨県、静岡県の各青年会からも参加者を募り「合同宿泊研修」としての開催となりました。

さて、昨今福祉業界ではいずれの組織においても人材不足の問題を抱えており、私たち経営陣には、求職者にとっての魅力のある組織作りと、離職者を減らす工夫が求められています。そこで今年度は、「人材」に絡めた内容の中から「経営論とメンタルヘルス」をテーマとした研修を行いました。

2日目のテーマは『経営論』で、ヘルスケア施設に対して多くのコンサルティング実績を持つ株式会社 日本経営の中川稔大氏を講師にお招きして、ご講演いただきました。

研修では『働き方改革を踏まえた組織構築と人材育成』と題し、第一部の「働き方改革について」では働き方改革改正法に伴う今後の改正事項の解説をしていただきました。中でも同一労働同一賃金の導入についてのお話は分かりやすく説明していただきました。続く第二部「働き方改革を踏まえた組織構築」では同一労働同一賃金を見据えた人事制度の構築について事例を踏まえてのお話、第三部「これからの人材育成のあり方」では能力開発に必要なものは何かという確認から、面談や経験学習の意義や重要性についてお話しいただきました。自社での取り組みなど経験談も交えた講演で、参加者からは「固い内容だが分かりやすかった。」等の感想をいただき、今後の人事制度や職員育成を考える上で大変参考になる研修となりました。



研修風景

2日目は『メンタルヘルス』をテーマとし、精神科・心療内科が専門の医療法人社団厚仁会 秦野厚生病院院長 坂井喜郎氏を講師にお招きして、『働きやすい職場作り』についてご講演いただきました。医療法人社団厚仁会は、秦野厚生病院をはじめ、介護老人保健施設、グループホーム、精神科グループホームを運営されており、坂井氏は同法人の理事長としてもその敏腕を揮われています。

研修ではまず、ストレスとは何か、ストレスを引き起こすストレスラーを分類してご説明いただきました。続いてメンタルヘルス対策の現状を、統計を踏まえ紹介していただき、ストレスによる生体への影響、ストレスにどう対処するか等をわかりやすくお話しいただきました。

参加者からは、「ストレスを整理して考えるきっかけになった。」、「ストレスを軽減させる心構えがわかってよかった。」等の感想をいただき、職員へのメンタルケアにどう取り組んでいくか、改めて考えることができました。

今回の宿泊研修では、神奈川県内の会員の方々に加え、東京都、山梨県、静岡県各青年会から、総勢30名近い方々に参加いただきました。研修もさることながら、情報交換会では県域を越えた様々な意見が交わされ、大いに盛り上がりを見せました。

2日間という短い期間でしたが、会員同士の交流を深めることができたとても有意義な時間となりましたことを、研修委員一同嬉しく思っています。



集合写真

【研修委員 平本剛士】

保育研究委員会研修会

去る平成31年1月29日（火）、神奈川県社会福祉会館4階第3研修室において、平成30年度保育研究委員会研修会を開催しました。

今回も日本保育協会神奈川県支部青年部と共催で開催をし、36名の方にご参加いただきました。

講師には東京大学大学院教授の遠藤利彦氏をお招きし、「乳児期に大切にしたいこと～保育の質をより高めるために～」をテーマにご講演いただきました。



研修風景

現在 OECDをはじめ、世界的に乳幼児期における教育・保育に注目が集まっています。それは、この時期の子どもたちに質の高い教育・保育を施すことがその後の成長にいい影響を与えるということが様々な研究で明らかになってきているからとのことです。そこには自己肯定感や自立心、協調性といった“非認知能力”がカギとなっていて、この力が育つためには乳児期からアタッチメントという考え方のもと、特定の大人に応答的に関わってもらう中で基本的信頼感や自律性、自己効力感が育まれることが大切であるとご説明いただきました。とても中身の濃い2時間となりました。

最後になりましたが、今回ご参加いただいた両団体の皆様、講演して下さった遠藤先生をはじめ、当日まで色々と準備でご協力いただいた事務局の葛西氏にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【保育研究委員 渡邊高幸】

障害研究委員会研修会

平成 30 年 11 月 20 日（火）に、障害者支援施設における利用者の高齢化対策の研修として、特別養護老人ホームグランモールさくら及川への視察を実施しました。グランモールさくら及川は厚木市睦合西地区の国道 412 号線沿いオープンした特別養護老人ホームです。平成 27 年の春にオープンした 4 階建ての施設は、開設 4 年目ということもあり、まだ新築したばかりのような綺麗な施設です。

4 階建てのフロアのうち、2 階から 4 階までが居住スペースとなっており、各フロアが 2 つのユニットに分かれています。建物内部には 2 つの大きな吹き抜けがあり、吹き抜け側に面した居室であっても十分な採光が取れる、明るく開放的な雰囲気が印象的でした。また施設の周りに大きな建造物がないため、ベランダ周りに位置する各居室はどこでも眺めが良好です。さらに広い屋上に上がると、本厚木の市街地や北に伸びる圏央道、厚木の山々の景色が広がります。夏には鮎まつりの花火を入居者の皆さんが鑑賞されるとのことでした。

ほとんどの居室は窓からベランダへ出ることができる設計となっており、火事などの災害時に避難がスムーズに行えるような工夫がなされていました。ユニット毎には小浴室が 2 箇所設置されており、より家庭的な生活が出来るように設計されています。施設長の山本氏は「家庭的な生活に近いものを目指し設計をしたが、人手不足や入居者の入浴回数を増やせない現状を考えると、大きな浴室を作る必要性もあった。」と、家庭的なケアが大切ではあるが、なかなか思うようにはいかない現実を話していました。

県内の障害者支援施設の多くは、築 30 年を超えるところが多く、長期計画で大規模修繕や施設自体の建て替えを検討している社会福祉法人が多数あります。また、開所 30 年を超えるような障害者支援施設は、長期入所をされている利用者の高齢化対応が課題となっており、特にハード面の整備は大きな課題です。今回の視察研修を通して、高齢化していく障害者が安心して施設での生活が出来るように今後の施設整備のことを考える貴重な機会となりました。

この度は見学を受け入れてくださった、グランモールさくらの入居者の皆様、山本施設長と職員の皆様に、この場をお借りし深く御礼申し上げます。

【障害研究委員 武藤祐生】

第 22 回社会福祉法人経営青年会全国大会

平成 30 年 11 月 15 日（木）～16 日（金）
京都府民交流プラザ 京都テルサにて「先達

の想いを継承し、さらに新しい道を創造する～真に地域で必要とされる法人経営に向けて」をテーマに、およそ 300 名の参加者が集い、神奈川県からは総勢 9 名で参加しました。

基調報告では塘林全国経営青年会会長が「社会福祉法人にいま求められる実践とは」と題し、地域共生社会の実現に向けて存在意義を示し、社会福祉法人の共通根である生活困窮者支援に社会福祉法人が積極的に参画することが期待されていると事例を交えて報告されました。



講義風景

行政報告では「地域共生社会の実現に向けて」と題し、厚生労働省社会・援護局 福祉基盤課長の蒔苗氏より、人口減少と少子高齢化が今後も加速すると推計資料により説明されました。高齢者の概念について、65歳以上を一律に高齢者とみる傾向は現実的でなくなりつつあり、意欲・能力を活かして活躍できるエイジレス社会を目指す中で高齢者雇用の更なる推進が必要。一方で誰もが安心できる「全世代型の社会保障」も見据え、当県藤沢市で行われている「地域の縁側」など先進的な取り組みを数例紹介、「地域共生社会とは断らない社会の事です。」との説明がありました。

続いて、京都女子大学現代社会学部教授 西尾久美子氏による「京都花街の経営学～伝統産業に学ぶ人材育成と事業継承～」、京都花街における舞妓・芸妓の育成システムにより、質やブランド力が向上したこと。また日本の伝統芸能であり、外国人にも大変人気がある観光財産として確立していると、お話がありました。

次に、佐々木酒造株式会社代表取締役 佐々木晃氏による「伝統を受け継ぎ、革新に挑む」では、明治26年創業であるが、新しいものとコラボレーションをし、ブランド化している。「その土地の日本酒はその土地の料理に一番合う。」という言葉にて、講義終了となりました。

2日目の記念講演では、京都産業大学学長補佐・法学部教授（前京都府知事）山田啓二氏による「地域共生社会の姿と社会福祉法人への期待」、将来に渡り持続可能な福祉の提供体制の構築に向けて、福祉を取り巻く情勢はきわめて厳しい。2020年に行われるオリンピックを見る子どもの人口は前回の東京オリンピックより約4割減。推計によると、ピークの2042年で高齢者500万人増、生産人口2000万人減。高齢化により病人と死亡者が増え、年間約40万人、認知症の方は現在400万人から2025年には700万人となる。GDPは1.2%増に留まる中、社会保障費は増大。不足する介護人材について、現在の有効求人倍率は約4倍であり、2025年は介護職員が数十万人不足すると発表している。今こそ「未来へ向かった投資」を積極的に実施すべきです。「地域共生社会の実現に向けて、真の医療・介護・福祉の連携を行う時である。少子化・高齢化は危機ではあるが、社会福祉という名の下に集結し皆で取り組み、その中心に社会福祉法人が活躍していく時代を作っていく姿勢が大切です。」という言葉で締められました。

情報交換会の様子



【総務広報委員 佐藤公博】

関東甲信越静ブロック経営青年会 総会・研修会

平成31年2月19日(火)～20日(水)
水戸において関東甲信越静ブロッ



情報交換会にて伝統芸能を披露

ク 社会福祉法人経営青年会 総会・研修会が開催されました。この大会は毎年この時期に11の都県が持ち回りで開催するもので、去年は栃木県宇都宮で開催されました。今年は「行動しろ！未来のために!! ～社会をつなぐ共生のリーダーシップ～」と題し、150名近くの方がホテル・ザ・ウェストヒルズ水戸に集いました。

1日目は講師に国会議員の国光あやの氏、NPO法人茨城県経営品質協議会理事の鬼澤慎人を招き、未来を創るリーダーシップや、期待することをテーマに講演をいただき、2日目はプロスポーツ

と地域の活性化をテーマとして、(株)フットボールクラブ水戸ホーリーホック代表取締役社長 沼田邦郎氏、(株)茨城ロボッツ・スポーツエンターテイメントの代表取締役社長 山谷拓志氏を交え、プロスポーツを軸とした取り組み、未来への展望などをトークセッション形式で会場を交えて講演をいただきました。福祉とは別世界と考えがちですが、地域の活性化という点では共通点が多いのが大変参考になり今後にかせると感じました。

最後に各都県の会長による活動報告を行い、大会が終了しました。県外の大会を通じて旅の道中や現地での情報交換会など大変有意義な時間を過ごせます。来年は、さいたま市で開催が予定されていますので、ぜひ多くの仲間と参加したいと思っております。

【総務広報委員 甘利悟】



活動報告する田代会長

会員交流会

平成30年12月17日キャメロットジャパンにて開催しました。「活動内容がわからない、知っている会員がいない」等の理由で青年会の活動に来られない方が気軽に参加できるようにと昨年度から始めた会員交流会ですが、今年は、31法人、36名の出席でした。



会員交流会の様子

今年度の各委員会の活動内容、そして2ヵ年計画で実施したアメリカ視察研修の詳細の報告を行いました。

参加者の皆様からは、「立食形式のため多くの会員の皆様と交流を図ることができ、とても有意義な時間となりました」と、好評でした。

ぜひ、来年度も皆様とご一緒できることを楽しみにしています。

【総務広報委員 石川友紀】

平成30年度第2回総会

平成31年2月26日(火)、神奈川県社会福祉会館にて平成30年度第2回総会を開催しました。最初に田代会長からのあいさつがあり、出席者31名、委任状提出者35名、計66名をもって総会成立とし、神奈川県社会福祉事業団の飯田裕彦氏を議長として、次の議案を審議しました。

第1号議案 平成30年度収支補正予算(案)について

第2号議案 2019年度事業計画(案)について

第3号議案 2019年度収支予算(案)について

第4号議案 役員改選について

第5号議案 その他

審議の結果、すべての議案が承認されました。

最後に第4号議案で承認された役員、卒会を迎えられる方、各委員会の委員長からのあいさつと新たに入会した3名の紹介を行いました。



総会風景

【総務広報委員 橋本愛】

総会研修会

平成 31 年 2 月 26 日 (火) に研修会を開催し、講師にアカペラグループ「RAGFAIR」の奥村政佳様をお招きして『福祉と防災と音楽と』をテーマに講演いただきました。



講師 奥村政佳氏

奥村政佳様は、高校生の時に当時最年少で気象予報士試験に合格し、数年後には音楽活動の傍ら、保育士資格を取得、保育園の副園長を務めました。また、防災士として防災ボランティア活動をされる他、児童への気象教育をテーマとした WEB アプリ「SORAKIDS」を開発するなど、多くの分野で活躍されております。今回の講演では、自身が務めていた「園庭の無い保育園」での経験談や、大切にしているキーワード「5ch2w(change、chance、choice、chain、challenge、network、footwork)」を通じ、問題について発想を転換し、物事をプラス思考

で考えることの大切さを学びました。また、ボイスパーカッションの実演では、講師と受講者が一緒になって奏でる笑いの溢れた講義となりました。さらに、防災では地震の際の避難場所や初動方法等、一般では学ぶことのできない貴重で有意義なお話をいただきました。

私たち社会福祉法人の職員は、困っている人を助けたり、寄り添ったりすることが仕事です。今後も、地域を含め多くの方々から必要とされるよう、より良い関係を構築していきたいと考えています。

今回の研修では、物事の考え方や大切さを再認識できました。



集合写真

【研修委員 久保谷和明】

お知らせ

今後の予定

詳細については、案内書、またはホームページでご確認ください。

開催日	場所等	テーマ等
2019年6月25日(火)	キャメロットジャパン	2019年度第1回総会・研修会

新入会員紹介

新たに入会された会員を紹介します。

岡部一郎様(浄泉会) 浅野真巳様(小桜会) 豊川忠紀様(みらい) 三浦幸輝様(横浜白光会)

会員状況

101名 法人数 74 法人 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

編集後記

皆様、お忙しいところ広報誌の原稿作成にご協力いただきありがとうございました。下半期は、青年会の活動も活発であり、盛りだくさんの内容となりました。そして、記念すべきNo.50号の発行に携われたことを大変嬉しく存じます。引き続き、会員の皆様にとって有益な広報誌となるよう総務広報委員一同努めてまいりますので今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(Yuki Ishikawa)

発行/神奈川県社会福祉法人経営青年会

連絡先/〒221-0844

横浜市神奈川区沢渡 4-2

神奈川県社会福祉会館内

(福) 神奈川県社会福祉協議会

福祉サービス推進部

電話: 045-311-1424

Fax: 045-320-4077